

畑作・野菜・花き生産情報 第2号（要約版）

令和8年5月20日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ 小麦の生育が平年より早まっています。赤かび病の適期防除に努めよう！
- ◎ 大豆のは種に向けて、排水対策・土壌酸度矯正・砕土を徹底しよう！
- ◎ にんにくやだいこんなどの生育は、順調に推移しています。今後、気温が高くなる見通しなので、温度管理や病害虫の発生に注意し、適正な栽培管理を徹底しよう！
- ◎ 施設内の温度変化が激しい時期です。きめ細かな栽培管理により高品質な花きの生産に努めよう！
- ◎ ほ場周辺の雑草は病害虫の発生源となるので、繁茂させないように除草・防草に努めよう！

○小麦

- ・ 止葉抽出期は、5月2日から到達しており、「ネバリゴシ」は平年より5～7日早く、「キタカミコムギ」は3～5日早くなっている。
- ・ うどんこ病の防除は、病斑が止葉直下葉に発生したら、直ちに薬剤散布を行う。
- ・ 赤かび病の防除は、開花始めから開花期に1回目、その7日後に2回目の薬剤散布を行う。
- ・ 湿害防止のため、排水口や明きよの点検補修を行い、ほ場の排水に努める。
- ・ 本年は生育が早い傾向にあり、また、ほ場による生育量の差が大きくなっているため、今後の登熟状況に注意し、適期収穫に備える。

○大豆

- ・ 湿害による出芽不良を防ぐため、排水対策はしっかり行う。
- ・ 土壌酸度は適正に保ち、有機物や土づくり肥料の施用により地力向上を図る。
- ・ 出芽・苗立ちの確保や除草剤の効果を高めるために、耕起・砕土は丁寧に行う。
- ・ は種は5月中旬から下旬を目安に行い、除草剤（土壌処理剤）をは種後速やかに散布する。

○にんにく

- ・ りん片分化期は、一部ほ場を除き、平年より2～4日早く到達した。
- ・ 生育は、草丈、葉数が平年並から平年をやや上回っており、順調である。
- ・ 病害は、春腐病の発生が一部ほ場で見られる。

○ながいも

- ・ 普通栽培の植付適期は5月中旬～6月上旬なので、計画的に植付ける。ただし、切いもは、地温が低いと種いもの腐敗を招くので、地温15℃以上を確保できる5月下旬～6月上旬に植付ける。
- ・ 頂芽付小型1年子の早植え栽培（4月下旬～5月上旬植付け）の基肥は、萌芽期（萌芽が50%の頃）に、窒素成分で10a当たり6～10kg施用する。

○春夏にんじん

- ・生育は、葉長が平年を大幅に下回ったものの、葉数、根長、根重が平年並から平年を上回っており、順調である。
- ・トンネル栽培では本葉5～6枚時まで、1本立てとする。高温障害を防ぐため、生育ステージに合わせた温度管理を徹底し、6月上旬をめどに除覆する。追肥は、本葉5～6枚時に行う。
- ・べたがけ栽培では、本葉3～4枚時まで1本立てとする。除覆は本葉5～6枚時を目安とするが、この時期に低温が予想される場合は、本葉7枚頃まで除覆せず保温に努める。追肥は、本葉3～4枚時と5～6枚時に行う。

○春だいこん

- ・生育は、葉長が平年をやや下回っているものの、葉数、根重が平年をかなり上回っており、順調である。
- ・キスジノミハムシの発生が見られるほ場では、トンネル除去後、早めに防除する。
- ・根部の肥大状況を確認しながら適期に収穫する。

○ばれいしょ

- ・植付期は平年より8日早く、萌芽期は平年より5日早かった。
- ・生育は、平年を大幅に上回っており、順調である。
- ・生育は停滞しており、草丈は平年を大幅に下回っている。
- ・1回目の中耕・培土は、草丈10cm頃を目安に行う。2回目は、着らい期に窒素成分で10a当たり4～5kg追肥してから行う。

○メロン

- ・苗の生育やほ場の準備作業は、順調である。
- ・計画的にはほ場準備を進め、土壌水分が好適な時期にマルチングを行い、地温の確保に努める。
- ・苗が老化しないよう適期定植に努める。定植が遅れる場合は、苗が肥料切れを起こさないよう、薄めた液肥を与えるなどの対策を講じる。
- ・トンネル内の温度は15～30℃を目標に換気し、雌花の確保と生育促進に努める。
- ・蜂の動きが活発でないときは人工交配を行う。また、天候不順の場合はホルモン処理を併用する。

○夏秋ギク

- ・定植後の生育は順調で、病虫害の発生は見られない。
- ・花芽分化の安定のため、温度は15℃以上、30℃以下を目標に管理する。
- ・白さび病やアブラムシ類、アザミウマ類等の早期発見・早期防除に努める。

○秋ギク

- ・採穂にあたっては、病虫害に侵されておらず、太さが揃い充実した苗を選択し、挿し芽を行う。
- ・定植後は、日中の温度が25℃以上にならないように管理する。

○トルコギキョウ

- ・定植後の生育は順調であり、病虫害の発生は見られない。
- ・生育の停滞やロゼットを防ぐため温度が 25℃以上にならないように管理する。
- ・病虫害の早期発見・早期防除に努める。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

◎環境にやさしい農業に取り組んで、「みどり認定」を受けましょう。

◎農薬は適正に使用しましょう。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

◎ツキノワグマ出没警報発令中です（4月20日～11月30日）

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 鈴木晃 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木村一哉
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480 内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9481 内線 5076
報道監	農林水産部 次長 相馬宏伊 内線 4967